

# し ぶ し 志布志 市議会だより

第12号

<http://www.city.shibushi.lg.jp>



山重小学校少年消防クラブ



ラッパ隊

緊急経済・雇用対策を求め決議 …… 2

潤ヶ野・八野携帯電話利用可能へ …… 4

野神保育所を民間へ移管 …… 5

肥育経営緊急対策事業で牛農家支援 …… 6

11議員が一般質問 …… 7

議員控室 …… 20

平成20年12月定例会を12月5日から25日までの21日間開き、一般会計、国民健康保険、後期高齢者医療、介護保険、下水道管理特別会計の補正予算、そして野神保育所を民間に移管するための条例など議案24件を審査しました。

これらの議案及び発議5件は原案どおり可決し並びに平成19年度の一般会計（歳入183億3,303万3千円、歳出179億6,779万6千円）と特別会計の決算を認定しました。

産業廃棄物安定型最終処分場計画反対についての陳情は採択しました。

また、新たな過疎対策法の制定に関する意見書とWTO農業交渉に関する意見書を国に提出しました。

一般会計補正予算は1億4,748万6千円増額し、総額204億8,020万6千円。国民健康保険など4つの特別会計補正予算は合計1,110万8千円を増額しました。

一般質問は、11名の議員が福祉、農業、観光、教育問題などについてただしました。

# 緊急経済・雇用対策を求め決議

緊急経済・雇用対策を求める決議

今定例会において、議員より、昨今の経済・雇用情勢の悪化を受けて、議会としても市当局に対し、特段の措置を講ずるよう強く働きかけるべきとの発議が出され、緊急経済・雇用対策を求める決議をしました。

米国に端を発した世界的な経済危機の影響を受け、日本の経済・雇用情勢は悪化し、先行きも不透明感の様相を呈している。経済・雇用情勢の悪化は、雇用労働者の契約打ち切りや採

用予定者の内定取り消しが相次いで発生するなど社会問題化しつつあり、志布志市内においても事業者の廃業による雇用労働者の解雇が生じ始めているなど、今後更にも失業者の増大が懸念されるところである。

そのセーフティネットとしての役割を担うことは当然であり、については、中小企業等に対する支援の充実、雇用労働者等の雇用の維持・確保を図るため、次の事項について特段の措置を講じられるよう、市当局に対して強く要請するものである。

- 1 経営支援及び雇用・就業支援を推進するため、相談・支援体制の一層の充実を図ること。
- 2 地域経済を守るため、金融機関に対し、いわゆる「貸し渋り」などが行われないよう要請すること。
- 3 市内の雇用情勢の動向把握に努め、市の事業を通じた雇用の創出を図ること。

以上、決議する。

平成20年12月25日

鹿児島県志布志市議会



祝 成人 1月4日 市文化会館

一方、外国船の入港や外国人の往来も年々増加しているが、全国の港湾においては、密航・密輸等の事犯が後を絶たず、志布志港においても過去幾多の同種事犯が発生しているほか、不法集団等によるテロの脅威は依然として高く、これが市民の平穏な生活を脅かし不安感を募らせているとこ

また、九州唯一の中核国際港湾である志布志港は、農・畜産物等の物流拠点として発展を続けており、地域経済の振興に加え、アジア・太平洋を中心とした海外との国際交流都市を目指している。

大隅半島の太平洋に広がる志布志湾及びその沿岸は、海岸一帯が国定公園に指定されるなど、その美しく自然に満ちあふれた景観は、志布志市民の誇りである。

志布志湾一帯における密航・密輸等事犯の防止に関する決議



鹿児島県志布志市議会

平成20年12月25日

以上、決議する。

よって、本議会は、市民が安全で安心できる港湾及び沿岸の環境を創るため、市当局や関係の機関・団体をはじめ、家庭や職場等、すべての市民が一体となって、志布志湾及びその沿岸地域における防犯意識の高揚と啓発活動に努め、密航・密輸等の各種犯罪を防止し、安全で安心な地域社会づくりに全力を挙げて取り組むことを決意するものである。

「オラレ」とは、地域還元型の簡易で小規模な競艇の舟券売場のことです。ネーミングの「オラレ」とは、スペイン語でみんなで楽しい所に行く時のかけ声で「さあ！（行くぞ）」「ハイ！（行くぞ）」という意味です。

委員は議長を除く32議員全員で、委員長に迫田正弘議員、副委員長に藤後昇一議員が選出されました。

「オラレ方式」による競艇場外発売場設置に関する調査を行うため、「オラレ方式」による競艇場外発売場設置に関する調査特別委員会を設置しました。

アピア2階に設置が計画されている「オラレ方式」による競艇場外発売場については、設置による効果、問題点等について調査を行うため、「オラレ方式」による競艇場外発売場設置に関する調査特別委員会」を設置しました。

「オラレ方式」による競艇場外発売場設置に関する調査特別委員会を設置

平成20年度 12月 一般会計・特別会計補正予算

会計名	補正前の額	補正額	補正後の額
一般会計	203億3,272万円	1億4,748万6千円	204億8,020万6千円
特別会計			
国民健康保険特別会計	48億6,812万6千円	1,417万9千円	48億8,230万5千円
後期高齢者医療特別会計	3億8,321万円	804万3千円	3億9,125万3千円
介護保険特別会計	31億2,667万7千円	1,113万2千円	31億1,554万5千円
下水道管理特別会計	3億1,389万2千円	1万8千円	3億1,391万円

# 八野・潤ヶ野携帯電話利用可能へ

移动通信用鉄塔施設  
条例について

(原案可決)

Q この条例の具体的な内容は

A この条例は携帯電話が利用できない潤ヶ野・八野地区に携帯電話のアンテナを設置するために制定するもので、鉄塔は市が設置し、NTTドコモとKDDIの2社に貸し付け、4月からサービスを開始する。

Q 今回の事業でサービスを受けられない地域はどの辺か、それらに対する今後の考え方は。

A 実際に運用してみないとわかりませんが、わかからないが馬庭、和田、柳井谷の3集落がエリア外となると聞いている。この地域については潤ヶ野・八野地区の整備を終えたのちにサービスを開始できるように協議する。



鉄塔施設建設予定地を調査する総務委員

一般会計補正予算

Q 20年度の地方交付税の額はいくらか。

A 減収補てん臨時交付金の創設による普通交付税の再算定が行われたことにより、交付税の総額は69億1893万6000円となる。

Q 財政調整基金の残高はいくらか。

A 19年度末の残高は19億3541万2000円である。

Q 自治会補助金75万9000円の減額の理由は。

A 世帯数が前年に比較し173戸減少したためである。

Q 市たばこ税の2000万円減収の具体的な原因は何か。

A たばこを吸う人が減少したこともあるが、タスポの導入などもあり、コンビニエンスストアでたばこを買う人も多く、その場合、市たばこ税は本店の所在地の収入になることなどが大きな原因と思われる。

これらの対策として、支店所在地の収入となるよう働きかけていきたい。

Q 賦課徴収費の備品でタイヤロック留め金具とは何を指すものが。

A 悪質な税金滞納者の車を差押さえるため、車輪をロックするものである。

「AZスーパーセンター大崎店」の出店に対する反対要望について(継続審査)



自動車用  
タイヤロック



バイク用  
タイヤロック

# 野神保育所を民間へ移管

保育所一部改正条例と財産の無償譲渡について

(原案可決)

Q 野神保育所の民間移管について、選考委員会の内容と若草会に決定した経緯は。

A 選考委員会は一回開催し、委員数は9名である。選考基準は法人の運

営現状等の6項目であり、選考委員各自の採点を合計して若草会に決定した。

Q 野神保育所の財産の若草会への無償譲渡については建物のみ評価額が提示されているが、備品等の査定はしてあるのか。評価額を議案に提示すべきではないか。

A 備品の購入金額は836万円である。今後は評価額を議案の中で提示したい。



元気な野神保育所の子ども達

志布志シルバーワークプラザの指定管理者の指定について

Q シルバー人材センター志布志支所は12月末で閉所して、来年1月から有明本所に統合されるが、その理由と利用者への周知と対応は。

A 平成23年から国の補助金が半分になる。この危機に対応するため事務を有明本所に一元化するものである。今後の利用者への周知は集落単位での回覧も必要と思う。自分の間志布志支所の電話は転送にして今後の状況をみて対応したい。

一般会計補正予算

Q 今回の小中学校の建物耐震診断調査による工事着工の見込みは。

A 今回の調査費で優先度調査を行った全ての建物の耐震診断を行うことになる。21年度では志布志中や松山中の補強工事を1/2の補助率で実施

する。他は耐震診断が終わった段階で、老朽化に伴う改修工事と併せて実施して行く。

Q 新給食センターのA重油等の光熱水費の増額補正の理由は。

A 当初予算ではA重油の使用量を月4000ℓと見込んだが、9、10月の段階で月8000ℓ使用していた。単価も予想以上に上昇した。当初予算での調査不足を反省している。

介護保険特別会計補正予算

Q 介護予防特定高齢者施策事業の減額補正は、特定健診の不用な元気な人が増えた結果なのか。

A 特定高齢者のデイサービス利用者の減少と、生活機能評価受診者の見込み数の減少によるものである。

国民健康保険条例の一部改正

Q 今回創設された産科医療保障制度の仕組みはどうなっているのか。

A この制度は、分娩機関と妊婦との契約に基づいて、通常の妊娠、分娩にも関わらず脳性麻痺になつた者に補償金を支払う制度である。補償金は3000万円、保険料は3万円である。分娩機関は補償金を担保するため損害保険に加入する。妊婦の保険加入は強制的ではない。3万円は全額市の負担で加算される。

産業廃棄物安定期最終処分場計画に反対する陳情書(採択)

安楽川内水面漁業協同組合から提出された、曾於市末吉町南之郷付近に計画されていた産業廃棄物安定期最終処分場計画に反対する陳情は採択されました。

# 肥育経営緊急対策事業で牛農家支援

一般会計補正予算

Q 肥育経営緊急対策事業の実施内容と支援をする金額の算定基準は。

A 現下、厳しい経営の肉用牛肥育農家に支援措置をする。肉用牛肥育経営安定対策事業で農家の所得が赤字となる場合に、家族労働費の8割を限度に補てんされる。肉専用種については家族労働費が7万4,422円の8割の5万9,500円を国が補てんし、2割の1万5,000円ほどを市が独自に支援する。交雑種は4万1,310円のうち3万3,000円を国が補てんし、800円を市が支援する。乳用種については2万8,455円のうち2万2,700円を国が補てんし、残り5,000円を市が支援する。

Q リーフ茶の利用促進が課題となっているがどのような取り組みがされているのか。

A 市の振興会、県の茶生産協会が一体となって

加しながらリーフ茶の利用促進に努めている。

Q 「かこしま茶産地拡大事業」で、既存の製茶機械からすると、省エネルギー型の機械を導入すれば



肥育経営緊急対策事業を実施

今年の11月23日を「お茶一杯の日」として、県下一斉にお茶の消費拡大に取り組んでいる。市としても各種イベント等に、参

どれぐらいのコスト減になるのか。

A 燃費の削減率10%以上を目的とすることにより処理能力の向上と時間短縮も図られる。

Q 有害鳥獣捕獲事業の今後の見込みを含めて20年度分の捕獲数は。

A カラス560羽、イノシシ70頭、タヌキ50頭である。

Q 松くい虫伐倒駆除の作業方法と本数の推移は。

A 作業方法は、枯れ松を伐採して同じ場所に集め、ビニール等で覆って薬剤を入れて処理する。推移は、平成18年度が478本、平成19年度が688本である。

Q 耕作放棄地の調査結果と今後の取り組みは。

A 耕作放棄地Aが272ha全体の28.6%、耕作放棄地Bが92ha、9.5%、耕作放棄地Cが586ha、61.9%、合計で950ha。地域ごとに松山地区89ha、志布志

地区593ha、有明地区268haで、認定農業者や担い手農家に利用権設定を進めながら解消に努めていきたい。

耕作放棄地A：人力・農業用機械で草刈り等を行うことにより、直ちに耕作することが可能な土地

耕作放棄地B：草刈り等では直ちに耕作することはできないが、基盤整備を実施して農業利用すべき土地

耕作放棄地C：森林・原野化している等、農地に還元して利用することが不可能な土地

## 潤ヶ野営農センターの改修を



改修が待たれる  
潤ヶ野営農センター



鬼塚 議員

**鬼塚弘文議員** 潤ヶ野営農センターの改修について、公民館長、長寿会から要望書が提出されているが、当初予算に計上できないか。

意見を聞きながら  
取り組み

市長 公民館、長寿会の意見を伺いながら、取り組みたい。

教育長 生涯学習の場であるので、側面から進めていきたい。

**観光協会の今後の方向性は**

**問** 観光協会で二連の不祥事があったが、観光行政は、市民も期待するところである。今後の観光協会の方向性を伺う。

チエック機能の  
強化を図る

市長 今後は特産品協会との合併を視野に入れた形で、再生に向けて取り組むと聞いている。補助金の使用チエック機能の強化も図る。

**商工観光窓口を駅周辺に**

**問** 商工観光の窓口を本庁舎内に置かず、商工観光のにおいのする志布志駅周辺に設置する考えは

ないか。

JRと協議している

市長 志布志駅舎内に、総合観光案内所の設置について、JRと協議している。次年度に具体的に施設整備ができるのではないかと考えている。

**消防組合の広域化の状況は**

**問** 消防組合の広域化が進むなかで、第2回消防議会において、合併に伴う議案が可決されているが、内容を示せ。

署の建設が整備計画に  
盛り込まれた

市長 南部消防署の建設事業を要望し、整備計画に盛り込まれた議案が可決された。

**レスポンスタイムの改善策は**

**問** 南部署の建設により潤ヶ野、八野、森山、田之浦、四浦、尾野見、宮下地域のレスポンスタイムは、15分の枠に入っていない

が改善策につながるのか  
問う。

レスポンスタイム：救急車が通報から現場に到着するまでの時間



南部署の救急車両

全国平均に近づくと  
努力する

市長 南部署の建設地によるが、大崎に分駐署ができることにより管内としては10分から7・9分に短縮改善が見込まれる。今後の建設地次第でレスポンスタイムが全国平均の6・6分に近づくと努力していく。

建設基金の活用は

**問** 合併後の本部は常識的に考えても規模の大きい鹿屋に決まる可能性が高いと思う。本庁舎建設基金を旧8か町で積み立ててきた。建設予定年度で1億7000万円となるが、この基金活用についてどう考えるのか。

近隣市町とも検討する

市長 目的がなくなるとすれば基金の活用については曾於市、大崎町とも検討する必要がある。

**学校の規模・配置の在り方検討委員会の進ちょくは**

**問** 学校の規模・配置の在り方検討委員会の進ちょくはどうか。

アンケート調査を実施

教育長 保育園、幼稚園、小中学校の保護者等を対象に望ましい学校の在り方、適正規模のアンケート調査を実施し、その結果を見て、市教委としては検討委員会に諮りたい。

# 消防分団に運営費助成を



立平 議員

**立平利男議員** 市消防団は3方面隊17分団、団員456名で組織され、市民の生命財産を守るために日夜努力されている。分団運営の費用として後援会助成もあるが団員負担金として、年俸と出勤手当の中から2万5〜6千円徴収して訓練費、通信費、総会費、会計手当等を支出している。災害時等重要な組織である消防分団に運営費を助成できないか。

## 訓練費等見直しをする

市長 団員は非常勤の公務員であり、また条例に



消防出初式

規定されている報酬費用弁償等を支払っていることから現在のところ分団への助成は考えていない。しかし分団長以下さまざまな災害を想定して訓練をされている。そのため訓練費用、備品

費、整備費等見直しをしたい。

## 耕種農家に堆肥舎を

問 県有機農業推進計画

が本年の8月に発表された。市として有機農業推進のために、肥料高騰もあり耕種農家に堆肥舎設置の助成はできないのか。

## 意向調査等をして

市長 循環型農業を考えると農家が自分の作物に合わせて有機質の堆肥を作っていく事は大事であると考え、今後耕種農家の現状、意向調査等、諸課題を関係機関と連携し検討する。

## 経営移譲支援の取り組みは

問 県の農業農村振興協会の離農を考えている農家に対して、後継者となる就農希望者を斡旋する事業経営継承事業の取り組み状況は。

## 要望調査を行う

市長 協会より希望者等の調査依頼があれば、各生産部会は団体等の要望調査を行う。農業公社の新規就農の研修制度と併用できる事業であり、研修生が該当すれば支援協力していく。

## 公共施設の合併浄化槽設置状況は

問 市内の公共施設として公民館、公営住宅、教職員住宅、加工センター等の合併浄化槽の設置状況と取り組みは。

既に国、県の補助がない

市長 公共施設には、一部単独浄化槽のみ取り式がある。利用頻度のある必要性の高い施設から財政状況を考慮して対処する。



公共施設にも合併浄化槽を



# まだか県道関屋地区の枯並木・雑草の撤去は



宮田 議員

**宮田慶一郎議員** このことは3月議会でも質問した。しかし、現状はその

まだまだ。志布志の玄関口がそれでよいのか。

県には要望してある

**市長** 県の方には市のメイン道路であるので、整備について十分配慮してもらおうよう要望はしてある。

県道大原地区に歩道設置を

**問** この街路事業の計画は途中で止まり、まったく進んでいない状況であり、残りの800mが未完成である。本道路は通学道路でもあり、早急に進める必要があるが現在

の進ちよく状況はどうか。

県に要望してある

**市長** 県は現在、測量調査中である。要望は県に随時行っている。

いつ、誰に、何回要望したか

**問** 私も県議会の副議長に相談したところ、さつそく県職員数名と共に、現場視察が行われ、その場で私が現状を説明した。執行部は県の方にいつ、誰に何回要望したか。



県道志布志福山線(関屋地区)の植栽状況



県道志布志福山線(大原地区)に歩道設置を

県の係長に要望した

**建設課長** 5月と8月ぐらいに県の係長に要望した。県の上司にはその係長から話をしてくれると思う。

県の反応はどうかだったか

**建設課長** 「検討します」との回答をもらった。

# 商工業の活性化は 本庁を志布志町へ



西江園 議員

の制度資金の融資に対して利子の補助制度の創設と市内のみで使える地域振興券を発行し、市内での購買増を図りたい。

## 企業誘致より

まず本庁を志布志町へ

**西江園明議員** 市民や既存商店街は、合併効果を期待してはや三年が経過しようとしている。しかし合併効果どころか衰退するばかりである。さらに、昨今の経済情勢が追い打ちをかけた厳しい経営を強いられている。店舗改装等に対する補助制度を含め商工業の振興を図るつもりはないか。

## 利子補給制度と

地域振興券を検討

**市長** 商工業者を対象にした事業を来年度予算に計上するよう検討中である。具体的には、県や国

しいと思っている。志布志市の発展を考えたときに未来永劫にわたって、私も考えていない。庁舎移転は、長時間かけて議論しなければならぬ課題と思う。

**問** 世界的な経済不況の中、全国的にリストラや企業の縮小が相次いでいる。このような経済状況での企業誘致は厳しいと考える。今こそ、駅、港、バスターミナルそして銀行街のある中心地に本庁を移転することが、最大の経済効果と考えるが市長の見解を問う。

## 長時間議論する課題

**市長** 合併協議会で協議され現在地に決まり、別館を増設し本庁舎になったので、現在地がふさわ



供用開始間近の志布志港新若浜地区

## 外国船乗組員の誘致を

**問** 昨年、志布志港に上陸した外国船乗組員の人数はいくらか。

**市民環境課長** 昨年度は外国船が721隻入港し外国人の上陸許可者が1万1,254人である。

**問** これだけの外国人が生活物資などを購入するために、志布志市内に上陸している。この人たちが気楽に立ち寄れるスベ

ースをアピアの空き店舗跡地に作り、売り上げ増を図るつもりはないか。

**市長** 今年の三月には、志布志港の新若浜地区も供用開始になるので更に外国船の入港は増えると考えられるので、観光案内所はJR志布志駅に設置する方向で協議している。アピアの利用については、いろんな角度で勉強して行きたい。

**大崎町との合併をどのように考えるか**

**問** 先般、大崎町から合併についての協議の申し入れがあったが、今までの経緯を問う。

**市長** 16年1月、合併協議会から離脱。18年11月に町民によるアンケートを実施し、52%が合併賛成を占めた。18年12月と19年9月に大崎町議会で合併推進の決議がされた。しかし、20年7月に志布志市への合併の申し入れは反対多数で否決された。その後9月議会で賛成多数になり、10月28日に文書で合併に関する協

議の申し入れがあった。  
**新合併特例法に  
間に合うのか**

**問** 市長は6月議会で、新合併特例法を前提にした場合、時間的に非常に切迫していると答弁している。あれから半年が経過しているが間に合うのか。

**時間的に厳しいが  
真摯に対応**

**市長** まだ議会に条例の提案ができるような段階には達していないが、22年3月が新特例法の期限であるため、時間的には厳しいが真摯に対応して行きたい。

**志布志市民の  
民意は問うのか**

**問** 大崎町には再度民意の確認をお願いしたとのことだが、志布志市民の民意は問うのか。

**大崎町の経過を見て**

**市長** 大崎町の民意の状況を見ながら、市民にも合併について正式に話をしたい。

# 妊婦無料健診の拡充を!



小野 議員

**小野広嗣議員** 国は出産までには14回程度の健診が望ましいことから、先の経済対策で14回分の妊婦健診の無料化の方向性を盛り込んだ。本市でもぜひこの機会に、現行7回の無料健診を14回に拡充すべきではないか。

積極的に14回を目指し  
助成充実を図りたい

市長 市においても、子育て環境整備の一環として妊婦健診の助成充実を図っていききたい。そのためにも、積極的に14回を目指すような政策を検討したい。

**3期介護保険事業計画の検証結果と今後について**

**問** 今年度は、21年4月からスタートする第4期介護保険事業計画の見直しの時期にあたる。これまでの約3年間の介護保険事業計画の検証結果と第4期計画策定にあたっての考え方、取り組みを

3期計画の見直しを行い慎重に検討したい

市長 地域包括支援センターの設置をはじめ、介護予防事業、包括的支援事業、任意事業を実施した。地域密着型サービスが創設され、施設の整備が行われた。第4期の計画策定については、策定委員会を設置し3期計画の見直しを行いながら協



地域包括支援センター

議しているが、介護保険施設入居待機者も3000人を超えているため国の参酌基準を念頭に置き慎重に検討していきたい。

**地域包括支援センターの人的配置は大丈夫か**

**問** 地域包括支援センターにおけるプラン作成や業務が増える状況の中で、21年度以降の人的配置は大丈夫なのか。

業務が停滞しないようにしっかりと対応したい

保健課長 現在、職員、社協からの派遣職員、嘱託職員で事業を行っている。プラン作成の直営分が大幅に伸びてくれば業務が停滞する可能性もあるので、そういう部分についてはしっかりと対応していきたい。

**道徳教育の現状と今後の方向性について**

**問** 今後5年間の教育振興基本計画の中で、道徳教育の充実に向けた指導方法、指導体制等に関する研究や教材への国庫補助を検討することが明記された。今後地域の実情に応じた道徳教育の推進計画の策定が求められるが、市の道徳教育の現状と今後の方向性を示せ。

全教育活動を通して心の教育を推進している

教育長 各学校において、指導計画に基づいた指導が年間35時間程度、計画的に行われている。ボランティア活動や職場体験学習などの体験活動も含めた全教育活動を通して、心の教育の推進が図られている。今後、市教委としては学習指導要領の改訂の趣旨や道徳教育の目的をふまえ、子どもたちの多様な価値観を育む指導を継続していきたい。

**メディアの有害情報から子どもたちを守れ**

**問** 現在、インターネットや携帯電話、テレビ、出版物等のメディア上の有害情報が深刻な問題になっている。市では有害情報から子どもを守るために、どのような取り組み

をしているのか。

指導を繰り返している

教育長 子どもたちの生活環境にはメディア上のさまざまな有害情報があふれているので、各学校ではインターネットの正しい使い方に関する授業や、ネットいじめをテーマにした総合的な学習の時間の活用やリーフレットなどで指導を繰り返している。

**フィルタリングサービスの周知徹底を図れ**

**問** 有害サイトへのアクセスを防ぐ、フィルタリングサービスの周知徹底を保護者に行うべきではないか。

フィルタリングサービスを積極的に進めたい

教育長 今後は保護者と一緒に子供たちの分についても、フィルタリングサービスの設定を有料・無料に関わらず、積極的に進めていく方法をとりたい。

# 道路行政を問う



金子 議員

**金子光博議員** 6回目の質問になるが、県道柳橋・弓場ヶ尾間の今年度の具体的な進捗よく状況と今後の見通しはどのようなか。

**最重要路線として 県に要望している**

**市長** 志布志市の最重要路線として県に毎年要望している。20年度から事業費がより増額できる地方道路交付金事業により整備が進められている。現在3,000万円の事業費で昨年完了区間より松山方面へ切り取り工事



県道柿ノ木志布志線の現状

を進めている。延長1.4kmのうち1kmは用地買収が終了し、残り400mの用地測量と用地買収を実施中である。今後は排水流末の関係から柳橋方面から工事を進める計画である。

## 市道平山線について

**問** 市道平山線（平山地内）の第一級の危険箇所（がけ）の現状認識と今後の考え方を示せ。

危険な道路状況である

**市長** 本当に厳しい危険な道路状況であると認識した。現在、地権者の方と何年も交渉していない状況にあり整備がされていないということについては誠に申し訳なく思っている。

まず用地の確保が先決という状況なので、交渉を重ねて行きたいと考える。



市道志布志平山線沿いのがけ

## 市道吉村押切線について

**問** 市道吉村押切線の改良工事が計画変更されたが、地権者への説明は不十分と考えられるがどうか。

理解頂くよう

取り組みたい

**市長** 私自身、認識があまりなかったと思う。関係者の方々に理解もらせるように、すぐさま出向き陳謝し、今後の事業についても理解してもらえように取り組みたい。

## 農道整備について

**問** 曾於南部土地改良事業を活用しての農道整備の実績はどうか。

計画路線の整備を目指す

**市長** 20年度までの整備済路線数は6路線の延長で3,457mが完成し、進捗よく率18.4%である。残り29路線の延長1万1,527mは事業完了である25年度までに計画的に工事実施ができるように県と協議をしながら進めていく。

財政的に厳しい状況の中で土地改良事業、基盤整備事業というような形で取り組む絶好のチャンスであるので計画路線の全整備を目指して頑張る。

# 「広告」で収入増を図れ



岩根 議員

## 岩根賢二議員

市の中期財政計画では歳入歳出の額は、平成18年で187億円あったものが平成22年度には160億円に減少することになっている。

今後の市民の福祉の向上を図るには歳入の確保策と歳出の削減策を考えたいかなければならない。

そこで市の公用車に広告を載せて歳入を確保する考えはないか。また、広告入りの封筒を無償提供してもらい経費の削減を図る考えはないか。

## 導入の方で検討中

**市長** すでに市報しゅしで広告掲載に取り組んでいるが、公用車を含め封筒や指定ごみ袋等へ広告

掲載できないか検討しているところである。導入の際には要綱を整備して取り組みたい。



広告を載せている長崎県松浦市議会の公用車



## 窓口で使用されている封筒

## 補助金のあり方の再考を

**問** 市では補助金制度に係る指針を策定したが、公表の仕方、意見募集の方法は妥当であったか。

また、補助金を受ける側の団体の長が市長である場合、地方自治法や民法など、法的に問題はないのか。さらに、このことについて見直す考えはないか。

## 検証を続けていく

**市長** 市では行財政改革推進委員会からの答申にもと

づき補助金制度等に係る指針を本年10月に策定したが、その間、広報紙9月号で意見募集を行った。公表の場所は市のホームページと本庁総務課及び各支所の地域振興課であった。寄せられた意見は、一人の方から4件であったが、手続的には妥当であった。

また、補助金の交付は一種の贈与契約に当たるので「双方代理」の禁止規定が適用されるが、本市では、市長が長となっている団体の補助金申請は、団体のほかの者に権限を委任して行っている

ので適法であると考えている。したがって、補助金の交付を理由としての役員の見直しは考えていない。

ただ、どうしても市長がその団体の長でなければならぬという点については、それぞれの団体の性格や目的があるもので検証したい。また、補助金が申請の目的どおり使用されているかも併せて検証していきたい。

※「双方代理」については民法第一〇八条

同一の法律行為については、相手側の代理人となり、又は当事者双方の代理人となることはできない。ただし、債務の履行及び本人があらかじめ許諾した行為については、この限りではない。

## 地方自治法第一五三条

市長はその権限に属する事務の一部を市の職員に委任し、又はこれに臨時に代理させることができる。

# 「志」の心で地域力を活かせ



下平 議員

**下平晴行議員** 「志」とは自分だけの利益を追い求める野心、野望を超えて、みんなの利益を追い求める心である。一人ひとりの職員がこのような「志」で市（市民）の将来のことを考えて業務に取り組み、市民と接してくれたら、志布志市は元気が出てくる。市民も自分たちでできることは自分たちでするようになっていくと思う。「志」の高い志布志市は、「志」の高い職員によって実現すると思うがどうか。

**市民のために働くことが大前提である**

**市長** 4月24日を志布志市の「志」あふれるまちをつくるつとの思いで、この日を「志」の町として宣言をした。その推進のためには、職員がまず「志」高く、市民のために働く職員でなければ



「志」ある対応を

らないということが大前提である。

**食品添加物の裏側の実態を情報提供できないか**

**問** 私たちが日常使用している食品が、どうやって作られているか、添加物がどれほど使われているか、ほとんどの人が知らないのではないかと思う。その実態、裏側を市民に情報提供する考えはないか。

**啓発のあり方を検討する**

**市長** 消費者が安心して食生活がおくれるよう、情報提供していく必要があると考えられるので、啓発のあり方について検討する。

**学校給食、調味料は安全か**

**問** 給食センターの栄養士は大変重要な役割である。献立表を作るために

食材や調味料の安全な選定はどうか。

**安心・安全な学校給食を提供していく**

**教育長** 不必要な食品添加物が使用されていないもので、安全が確認されたものを原則として購入している。例えば、味噌は保存のための添加物を使用していないもの、醤油は合成着色料、合成甘味料等を使用していないものなど、今後とも食材及び調味料の安全を確認しながら安心・安全な学校給食を提供していく。

**潤ヶ野・八野移動通信用鉄塔施設の通信不能なエリアの取り扱いは**

**問** 移動通信用鉄塔施設の設置により、携帯電話の移動通信サービス利用可能な地域を拡大し、地域の利便性が図られるが、通信不能なエリアの取り扱いはどうなるのか。

**情報通信技術の動向と国の政策に注意しながら取り組む**

**市長** 通信事業者は地下街や、地下鉄等で実用化されている技術を応用して、小規模エリア向け携帯電話サービスの研究を行っている。人家が点在しているような集落単位のエリアの利用が考えられるので、市としては、サービスが行き届かないエリアについては、情報通信技術の動向と国の政策に注意しながら取り組んでい



鉄塔施設建設予定地

# 枇榔島自然観察教育林活用を



枇榔島全景



立山 議員

**立山静幸議員** 昭和50年、旧串間営林署と旧志布志町が、枇榔島を自然観察教育林として位置付けて以来、平成14年度まで海水浴、林内観察等レクリエーションの場として、また、保健休養林として多くの観光客が訪れ活用していた。

等の歩道を清掃していたが現在では実施されていない。島全体がヒロウ樹を中心とする亜熱帯植物群や昆虫類、鳥類等の宝庫である。

自然観察教育林として、現在耕地林務水産課が担当しているが、教育委員会に所管換えして教育面から活用を図るべきと考えるがどうか。

## 林野庁管理のため

耕地林務水産課が最善

市長 枇榔島は国有林として林野庁の管理が主であり、枇榔島

でのレクリエーションの利用、森林と人との共生林として活用するためには、現段階では、耕地林務水産課が最善である。

## 積極的な活用より 保護に努力

教育長 小・中学校の自然科学の場及び一般の植物管理林としての利用目的そのものは、現在も極めて妥当なものである。

現実的に活用となると、安全性や利便性に伴う巨額の経費等諸課題の解決を図る必要があり、積極的な活用推進よりも保護に重きをおきたい。

## 枇榔島管理運営協議

会の設置を急げ

**問** 大隅管理署が平成18年9月14日付で、管理運営協議会の設置を義務づけているが、現在まで協議会が設置されていない。協議会の設置を急ぐべきと思うが。

## 自然観察教育林を

5年間延長

市長 枇榔島森林レクリエーション地区管理経営方針書で、平成20年4月から5年間の存続が決定されている。



シルバー人材センター付近の状況

**問** 市役所別館及びシルバー人材センター付近の舗装を早急に変更すべきと考えるが。

## 応急的な措置を講ずる

市長 庁舎北側入口から市民グラウンド沿いに、細長く未舗装となっており、不便をかけているので、応急的な措置を講じる。

## 市役所敷地内の舗装を

協議会の設置は義務ではないが、是非設置してほしいとの要望である。枇榔島の活用をはじめ、レクリエーションの「森」の存続か廃止かを含め検討し、その結果、協議会の設置についても考えたい。

# 早急な経済対策を



小園 議員

**小園義行議員** 全国的に、国民が大変、苦しんでいる。本市の経済の状況も大変な状況と理解をしている。現状をどのように受けとめているか。

## 危機的状況と

認識している

**市長** 燃油高騰等による企業への影響、農林水産業の収益減、不安定な景気による商店街の衰退など危機的な状況にある。各種産業の収益の減による市民所得の減収、さらには医療、年金、介護、子育て、教育への影響も



市独自の支援策を

考えられる。このことは平成21年度の市の自主財源である市税への影響も避けられないものと認識している。

## セーフティネットの

状況は

**問** 本市の経済が大変な時だからこそ、しっかりと守って支援策をやる必要がある。国の対策の一つである原材料価格高騰

対策等緊急保証制度（セーフティネット）は業者の方々が市町村の窓口で申請をし、証明を受け、信用保証協会、金融機関を通じて対応することになっている。どれぐらいの申請がされているか。

## 11月から急増

**市長** 認定申請件数が11月から急増している。10月30日までは2件だったが11月以降は21件認定している。

**事業者の立場にたった認定を**

**問** 赤字決算や、税金の滞納、分納をしている事業者についても申請を受けて、認定の際に積極的に相談にのって、証明を出し営業を守る必要があると思うがその考えはないのか。

認定の要件とは  
していない

**港湾商工課長** 申請があった時点では国が示している3つの条件だけを加味しまして認定書を発行しており、指摘の件については認定の要件とはしていない。

## 不公平感のない対策を

**問** 今回㈱まちづくり公社（アピア）への支援策が出されているが、既存の事業者の方々に対して不公平感のないように市独自の支援策をする必要がある。旧志布志町でやっていた商品券支給事業や独自の利子補給制度等、早急に対策をする考えはないか。

## 早急に取り組み

**市長** 独自の対策として第一に利子補給制度で市内に住所または事業所がある商工会の会員で鹿児島県中小制度資金や日本政策金融公庫資金の融資

を受けた事業者にも、利子の一部を一定の限度内で補助することと2つ目に、市内でのみ使える地域振興券を発行して市内での購買増を図りたいと今検討している。このことについては関係団体と調整をしながら進めていく。早急な対策に取組んでいるところである。

## 児童の無保険状態を なくせ

**問** 本市は12月1日現在で短期被保険者証の交付状況で18才以下の子供が56世帯109人となっている。こうした児童の無保険状態をなくす考えはないか。

## 体制をとる

**市長** 国でも制度の改正が進んでおり、その制度に基づいた体制をとっていく。



# 2年間限り財政出動せよ



上野 議員

上野直広議員 2008年、100年に一度と

いう世界同時不況で、企業は、予想以上の減産に追い込まれ大型倒産が出そうな状況である。この経済状況をどうみているか。

来年度はさらに

市長 経済状況が急速に悪化している。政府は5兆円規模の景気対策を検討しているが、来年度は、さらに景気が悪化し、厳しい状況になると考えている。

各国首脳の協調もなく

問 1929年から始まった世界恐慌は経済学の知識が不十分だったため、政策上の失敗で長引いたが、2008年の不況は長引くと思うか。

マイナス成長に

市長 日本経済研究センターの見通しは、2010年まではマイナス成長になる見込みである。

市の経済対策を

問 政府の経済対策は遅れる。市の産業が2年間は持ちこたえられるように、市の経済対策を打つべきではないか。

対策は可能な限り

市長 市の単独の緊急経済対策は、可能な限り対応していく。

財源の確保は

問 地方交付税、地方税の不況による仮試算をどうみているか。

歳入の減を試算

市長 交付税は、3億3,000万、地方税は約1億円程度の減を試算している。

財政計画の停止を

問 不況で財源が不足する中で、21年度の中期財政計画(169億円)を停止しても市としての経済対策を図るべきではないか。

財政的な面で

市長 税については、大幅に変化する可能性がある。財政計画の内容を検証し、予算、決算と大幅に差異が生じれば見直しをする。

地方債を発行しても対策を

問 こついう不況対策は、早ければ早いほど良いとされている。市としての財政状況は、健全であるので、優先順位の高い公共事業、農業、商業政策等の経済対策に地方債を発行しても市としての経済対策を図るべきではないか。

最重要課題として

市長 平成21年度の緊急経済対策については、最重要課題として、地方債の活用を含めて対応していく。



景気後退を伝える新聞各紙

# 20年度常任委員会 所管事務調査報告

先進自治体の事例を学ぶため、昨年11月に総務・文教厚生・産業建設の各委員会が所管事務調査を行いました。その概要をお知らせします。

**総務委員会** 平成20年11月18日～21日

視察先 愛知県蒲郡市  
テーマ まちづくり構想

蒲郡市では、蒲郡南駅前広場の整備とそれに伴うまちづくり構想について研修しました。

蒲郡市は名古屋市内通勤圏の都市型の街ですが、駅前地区の整備により、既存商業施設の活性化、公共施設の整備、中心商業地の形成、また、マリンスポーツを通じた海洋性リゾート開発など志布志

港を生かしたまちづくりの参考となりました。

視察先 愛知県三好町  
テーマ 行政評価制度

三好町は、人口5万7千人の「日本一人口の多い町」であり、志布志市が取り組み始めた行政評価制度と同システムを扱っているため研修しました。

特徴的であったのは行政評価を事業の廃止を目的としていない点であり、事業を見直したうえで現状維持、拡大、統合等により改善して継続させることを基本としている点でありました。事業のスリム化を旨とする本市と財政状況が豊かな自治体との違いを感じました。



蒲郡南駅前広場での現地視察



愛知県三好町

視察先

岐阜県中津川市  
テーマ 行政評価制度

中津川市では、行政評価制度と行政評価委員会について研修しました。

中津川市は、三好町と異なり財政状況が厳しいなか、コスト削減を目的とした行政評価が行われており、本市にも参考となる点が得られました。

特徴的であるのは、職員による評価組織（内部評価）とは別に、外部評価として、市民による行政

評価委員会」を設置している点でした。

この委員会が事務事業を評価したうえで、市に対し事業廃止等の提言も行っていました。今後の展開として、市民による行政改革委員会を設置し、市民評価の提言の管理とフォローアップを行うことを検討しているとのことでした。

本市も行政マンによる行政評価の結果を、さらにこうした行政評価委員会にかけて、公正な立場で提言してもらおうようなシステムの必要性も感じるところです。



岐阜県中津川市

視察先 静岡県袋井市  
テーマ  
健康チャレンジ!!  
すまいる運動



袋井市での研修

岡崎市では、市内の「水資源」と「豊かな自然環境」を将来に継承するために、保全・育成し、活用していくことを目的とした「おかざき水とみどりの森の駅事業」について研修しました。  
この事業では、市民が自然を学び体験できる所を「森の駅」として位置づけて整備・支援を行っています。

袋井市では、市民の健康づくり、健康的な生活習慣の定着を目指して取り組んでいる「健康チャレンジ!! すまいる運動」について研修しました。  
この運動は、暮らしの中で行う健康づくり運動、また健康診査の受診やウォーキング大会へ参加することをポイント化して、そのポイントを公共施設利用券と

の交換や学校などへ寄附して教育環境充実に活用することもできるというものでした。

このような健康づくりに関する取り組みは、一人でも多くの市民に参加してもらうことが課題であり、本市においても今後良いアイデアを出し合い、市民が参加できるように取り組むことが大事であると思われました。

視察先 愛知県岡崎市  
テーマ  
おかざき水とみどりの森の駅事業



おかざき自然体験の森にて

「おかざき自然体験の森」は、自然を活用した体験を通じて環境教育の推進を図る目的で設置された施設で、田植え稲刈り体験や自然観察会等の活動が行われているということでした。  
志布志市の市民は環境に対する意識は高いと思われるが、この研修を通じて、今後、市内の豊かな自然などを活用した環境教育、地域の環境活動を支援していくことも重要ではないかと思われました。



豊川用水の利用について説明を受ける

いなべ市農業公園は、従来の「公園」という機能を越えて、さまざまな機能を有する新しい形の農業公園を地域の高齢者が主体となつてゆっくり時間をかけて整備・維持管理されています。  
公園の整備・維持管理にあたっては、高齢者の活躍の場の創出、「農業の振

視察先 愛知県独立行政法人水資源機構豊川用水総合事業部・豊川総合用水土地改良区  
テーマ  
豊川総合用水の活用による営農効果等  
豊川総合用水事業は、昭和24年に着手され、昭和26年には、愛知県東三河地方の平野及び渥美半島全域、静岡県湖西市の地域に農業用水、水道用水、工業用水を供給する総合開発事業となり、昭和43年に完了して

全面通水以降の営農効果については、ハウス等の施設園芸が大幅に増加し、花き・野菜などが全国屈指の生産規模を誇るほどになり、農業生産額は全面通水前の約10倍になっていました。  
水利用による農業生産額の増大は、曾於南部・東部畑かんが通水可能になった本市の今後の農業にも大いに期待ができるものと思われました。

「循環型社会の実現」、「農村と都市との交流」を理念にしてさまざまな取り組みが実践されています。  
高齢者に活躍の場を提供し、農業公園整備等の事業に参画することでやりがいや生きがいが生まれ、介護保険や医療費の軽減につなげることを目的にしています。このことは、農業振興とあわせて、本市が抱えているさまざまな課題を解決するために、行政の縦の枠を超えた取り組みとして参考になると思われました。



いなべ市農業公園にて

1891年(明治24年)10月、菱田川の川岸で二人の青年が熱心に話をしている。この二人が、野井倉台地と蓬原台地に水を引き水田にすることを夢みていた野井倉甚兵衛と馬場藤吉である。

当時、この地域はシラス台地で、夜は鬼火が出るくらいに荒れ果てた野原だったため、人々は川岸で、いも、陸稻、あわなど作って貧しい生活をしてきた。そのためか人々も、この広い台地に水をひいて、水田にすることが夢であったようである。

この夢が動いた1893年(明治26年)、野井倉甚兵衛氏は、野井倉、蓬原開田資金を種子島藩主から14万円借り入れることを実兄である上野南兵衛氏に依頼している。南兵衛氏は帰途の海上で寒風が吹き荒れ肺炎を患い、それでも

依頼を全うされ死去されている。南兵衛氏には、その時、幼児が5人いたそうである。

今回の世界同時不況のように、自分さえ儲ければいい、自分さえ豊かになればいいというマネーゲームの結果、世界の人々を苦しめている。このことは、市場経済にも正義や正直といった道徳が、大前提であることを認識する必要があるのではないか。一方人はいかに生きべきかと考えたとき、南兵衛氏のように、地域の発展に、誇りと自信をもって全身全霊上げて取り組んでいる容姿から鉄の

## 議員控室

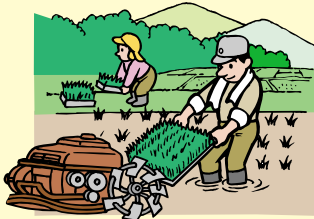
# 「開田に命をかけた男がいた」

上野直広



感ずる。

ごとき硬質の男の美を



### 行政評価システムを研修

昨年11月26日、来年度から本市で本格実施される行政評価システムについて議員対象の研修会が開かれました。

講師の行政経営アドバイザー梅田次郎氏から行政評価の目的や事業の評価方法の説明を受けた後、演習として班毎に分かれ、実際に事務事業の評価作業を行いました。

各議員、意見を活発に出しあった後、別に発表を行い、行政評価制度への理解を深めました。



## どうぞ3月定例会へ

21年度施政方針、当初予算審議等があります。お気軽にお越しください。

### 編集後記

藤後昇一



昨年末のテレビの報道特集で、北海道議会が取り上げられて批判の集中砲火を浴びました。批判的なのは道議会での一般質問が再質問も含め、執行部との協議で事前に練り上げられた台本通りに一言一句、忠実に演じられていることにあります。まさに言語道断です。

本市の議会はどうでしょうか。議会を毎回取材される記者が「大隅地区の議会の中で、志布志市議会の一般質問が一番おもしろい」と評していました。理由を聞くと筋書きのない緊張感と個性があるとのこと。

この市議会だよりが、一般質問や議案審議の臨場感をより多くの市民の方々に伝えられるように、親しみやすい紙面作りを目指して研鑽を積んでいきたいと思えます。

### 広報等調査特別委員会

委員長	岩根 賢二	迫田 正弘
副委員長	西江園 明	立平 利男
	下平 晴行	小野 広嗣
	鶴迫 京子	宮田慶一郎
	藤後 昇一	

発行責任者

志布志市議会議長 谷口 松生